

文献

相原 由花, 二木 啓, 江川 幸二, 鈴木 志津枝. 終末期ケアを受けるがん患者におけるアロマセラピーマッサージの有効性. *日本統合医療学会誌*. 2016; 9(1): 85-92. 医中誌 web ID 2016271111

1. 目的

終末期がん患者に対するアロマセラピーマッサージの有効性を検討する。

2. 研究デザイン

quasi-RCT クロスオーバー

3. セッティング

地域がん診療連携支援病院、緩和ケア病棟を有する病院等 6 施設

4. 参加者

積極的治療を中止し緩和ケアを中心に受けているがん患者 54 人

5. 介入

Arm 1: アロマセラピーとマッサージ施術群 (AM 介入) 27 人

Arm 2: アロマセラピー群 (A 介入) 27 人

6. 主なアウトカム評価項目

疼痛、倦怠感、呼吸困難、不安、抑うつ of 各自覚症状の介入前後の変化を NRS で評価した。

7. 主な結果

研究参加者を a 群 (AM 介入先行) と b 群 (A 介入先行) に振り分け、AM 介入では精油 (4 種混合) を塗布した複数個所の身体部に対し軽微なマッサージを 30 分間施行した。A 介入では同精油を染み込ませたティッシュペーパーを研究参加者の肩の横と足元において 30 分間のベッド上安静を依頼した。A 介入では a 群の「不安」 ($p < 0.02$) と b 群の「呼吸困難」 ($p < 0.007$) に改善を認めたのに対し、AM 介入では両群とも「疼痛」「倦怠感」「呼吸困難」「不安」「抑うつ」の全症状で有意に改善した。一方、症状ごとの各介入前後の変化量の差をみると、a 群では「疼痛」 ($p < 0.001$) と「抑うつ」 ($p < 0.006$) で、また、b 群では「疼痛」 ($p < 0.001$)、「倦怠感」 ($p < 0.027$)、「抑うつ」 ($p < 0.044$) でそれぞれ AM 介入が A 介入と比べ効果がより大きかった。

8. 結論

アロマセラピー用精油を用いたマッサージ施術はアロマセラピー単独介入と比べ、終末期がん患者が呈する身体的・精神的症状に対する効果はより大きかった。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

終末期がん患者の身体的・精神的症状に対する精油を用いたマッサージ施術がアロマセラピー単独介入より有効であることを明らかにした貴重な報告である。一時的効果であっても、精油を併用したマッサージ施術が緩和ケアの有用な選択肢になりうる可能性を示した意義は大きい。看護師の仕事への満足度や終末期看護の質を高める可能性の点からも高く評価できる。療養の世話の範囲で許容される AM 介入の効果的な施術時間と介入頻度に関する今後の研究に期待したい。ただ、本研究で設定された 30 分間のマッサージ施術は療養の世話の範囲を超えている懸念が否定できない。研究の質の向上とコンプライアンス (あはき法第 1 条の遵守) の観点から、マッサージの専門職であるあん摩マッサージ指圧師と連携した研究を望みたい。

11. Abstractor and date

藤井亮輔 2021. 12. 19